

アスベスト被害の根絶をめざす 京都の会ニュース

2014年1月29日 第4号
アスベスト京都の会 発行
事務局: TEL075(662)5321
(京建労本部気付)

[幹事会] 被害の訴え、学習、取り組み報告など多彩な内容に

「タルク被害」実態調査(医労連)に注目



昨年5月17日に120人の参加で結成された「アスベスト京都の会」の第2回拡大幹事会が1月27日に開催され、15団体・20人が参加しました。

今回の拡大幹事会は、活動報告と今後の取り組み提案のほか、アスベスト被害者の訴え、泉南アスベスト国賠訴訟2陣高裁判決の解説、『アスベストを疑え』パンフレットの学習など多彩な内容となり、各団体の取り組み交流もおこなわれました。

【参加団体】職対連、いの健、京建労、医労連、民医労、民医連、府職労、自治労連、京教組、市教組、府高、全印総連、合同繊維、立命館大学、自由法曹団

アスベスト被害者の訴え「主人のような被害者の救済に尽力したい」



1969(S44)年からビルや工場、船内食堂などの耐火被覆工事で石綿吹き付け作業に従事してきた義経大作さんは、腹膜中皮腫によって命を奪われました。大作さんは、建設アスベスト訴訟の原告として提訴する直前の2011年12月3日に享年63才でお亡くなりになり、その遺志を引き継いだ奥さんの若枝さん(原告団副団長)が、大作さんの当時の様子を語ってくれました。

主人は1998(H10)年ごろから、おかしなせきをするようになり、いくつかの病院を回りましたが、「肺炎の一步手前」「心臓肥大」と診断されました。私は不安に思い民医連に相談し、一週間の検査入院の結果、初めてアスベストが原因(石綿が原因のじん肺)であることが分かりました。

その後、2011(H23)年4月に民医連中央病院で腹膜中皮腫と診断されました。主治医の先生からは「今のうちにやりたいことをやらせてあげて」と言われました。

その後も主人は、入退院を繰り返し、2011年10月に再び入院しました。主人は、入院後、みるみる体力が落ち、私が食事を進めても、「どうせ食べても死を待つだけだろう」と言われました。そのときは、返す言葉もなぐさめる言葉も出てきませんでした。そして、12月2日夜に主人の病状は急変し、翌3日に永眠しました。

私と主人は、京建労がアスベスト被害の掘り起こしに取り組んでいたから相談できましたが、相談もできずに埋もれている被害者はもっと多いはずです。転職している人や、アスベストを扱ったことを忘れていた人もいます。今でも主人のことを思い出したらつらいです。悲しいことも愚痴も言いたいですが、それだけでは前に進めません。これからは、主人のような被害者を救済

する活動に取り組んでいきたいです。

泉南アスベスト訴訟の判決解説と『アスベストを疑え』パンフの学習



自由法曹団の福山弁護士(建設アスベスト京都訴訟弁護団・写真⑤)は、昨年12月25日の泉南アスベスト国賠訴訟2陣高裁判決について解説。1陣地裁、2陣地裁の勝利判決と比較して、2陣高裁判決の優れた点を分かりやすく説明してくれました。また、泉南2陣高裁判決を建設アスベスト訴訟の東京地裁判決(2012年12月)に当てはめると、東京地裁判決で救われなかった多くの被害者が救済できる可能性もあり、建設アスベスト訴訟にも大きな影響を及ぼす点でも、2陣高裁判決が画期的であることを解説してくれました。

続いて、『アスベストを疑え』パンフレット(写真⑥)の活用・普及をめざし、作成者である京建労の酒井書記長が、パンフレットの内容を説明しました。



医労連・民医連・京建労からアスベストの取り組み報告

医労連の藤井さんから、「山口県の准看護師が医療用のゴム手袋を滅菌する作業(タルク=石綿含有)が原因で悪性胸膜中皮腫を発症したニュースは衝撃的でした。アスベスト被害が医療労働者にも広がっていることは放置できないと、昨年12月に全組合員向けの実態調査(アンケート)に取り組みました。アンケート調査は始まったばかりですが、結果をもとに実態を広く知らせていきたい」と発言がありました。

民医連の佐々木さんからは、「アスベスト対策委員会は、学習、石綿関連疾患、情勢、運動、情報共有、情報提供など、委員自身が学び活動を広げていく力になれるようにと、隔月定例で開催しています。最近では、問診票の整備やアスベスト学習会(昨年8月)などを開催」、京建労の巽さんからは、「建築国保組合のレセプトや組合共済の申請書から石綿関連疾患のチェック・該当者へのアンケート送付、組合員の胸部レントゲンの専門医による読影、無料CT検査などで被害の掘り起こしをおこなっています。民医連でお願いしているCT検査の結果(主に胸膜プラーク所見)は、これまで、石綿健康管理手帳の申請や、肺がんの労災申請の際に活用し、大きな力になっている」と、それぞれ報告がありました。



最後に石原会長(立命館大学教授・写真⑥)が、「京都の会の今後の方向性として、被害実態を示し、マスコミを通じて世論に訴える活動が必要だと思います。医労連のアンケートは、ぜひ発表してもらいたいです。建設以外にも色々な分野に被害が広がっている証明になり、社会に訴えることができます」と幹事会のまとめをおこないました。

第2回拡大幹事会の確認事項

※詳細は幹事会レジメ参照

- ① 5月14日(水)の第2回総会(ハートピア京都)を成功させよう。
- ② アスベスト訴訟支援に全力を挙げよう。
- ③ 会員拡大に取り組もう。※現在18団体・個人13人

九州建設アスベスト署名
全国から35万筆あつまる
「京都の会」も取り組んだ(合計759筆)九州建設アスベスト訴訟の公正判決署名は、昨年12月6日に第一弾として23万筆が福岡地裁に提出され、1月9日現在で全国から集まった署名は35万筆に達しました。第二弾の提出は2月中旬です、